



令和7年度 東京都北区立王子桜中学校

令和7年5月 第2号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子2-7-1

Tel 03-5902-3155

# 王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 自主 創造 飛翔

## 《令和7年度 第21回入学式を挙行了いたしました。》

4月8日、朝から青空が広がり心地よい陽気の中、137名の新入生を迎え、第21回入学式を挙行了いたしました。新入生・在校生とともに厳粛な式典にとっても立派な姿で臨んでいました。



校長阿久津の式辞の一部を掲載いたします。

～（略）～三つ目は、この地域の皆さまに愛される王子桜中学校の歴史と良き校風を引き継いで、未来に繋げていってほしいということです。王子桜中学校の良さの一つに、「自主」・「自律」の学校文化を大切に育んでいることが挙げられます。すべての生徒が「自分の考えで、自分で判断し、進んで行動できる」人になることを目指しています。その実践の一つとして、開校以来ずっとノーチャイムを続けています。これは、先生に言われなくても、一人一人の生徒が時間に対する意識を高めて自律的に学校生活を送れる「証」として受け継いでいるものです。

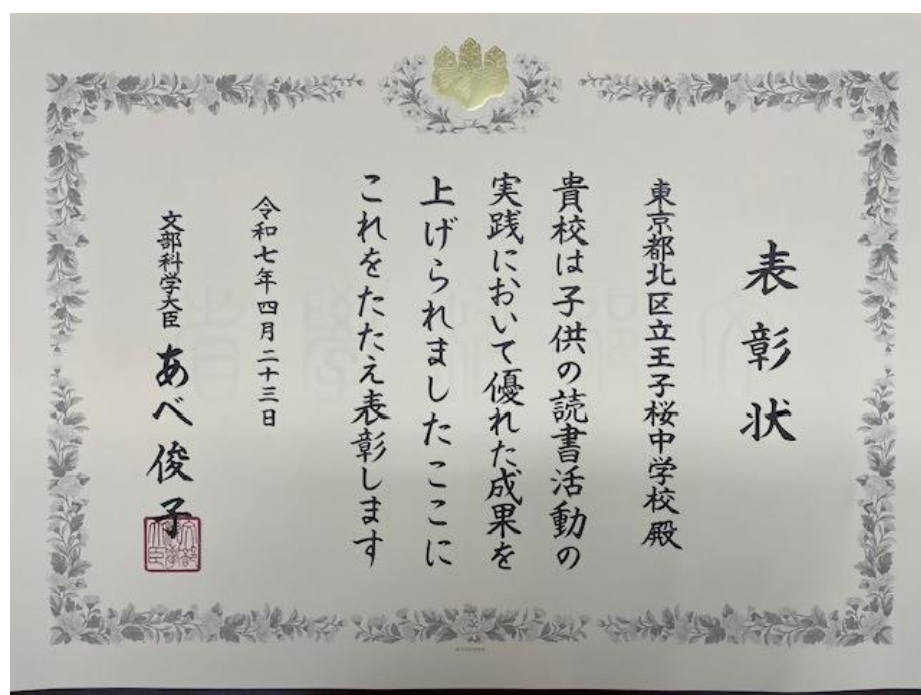
王子桜中学校は、今年の11月1日に創立20周年記念式典が開催されます。現在周年行事の準備のために大勢の地域の皆さまからご支援、ご協力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。それと同時に、新入生のみなさんには、そんな温かい地域をさらに好きになり、地域を大切にする心を養い、地域に愛される王子桜中学校の歴史と良き校風を引き継いで、未来に繋げてほしいと願っています。～（略）～

最後になりましたが、保護者の皆さま、改めましてお子様のご入学おめでとうございます。本日から王子桜中学校の生徒としてお子様をお預かりいたします。思春期を迎える子どもたちにとって中学校生活は将来しっかりと社会人となるための準備期間でもあります。保護者の皆さまとしっかりと連携を保ちながら生徒一人一人を大切にして、どんなに予測困難な時代になろうとも、たくましく、より良く生き抜く力を育てて参ることをお誓い申し上げ、式辞といたします。

## 《祝 4月23日、令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰を受賞しました。》

4月23日（水）、令和7年度子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰式が、国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町）にて行われ、王子桜中学校が表彰されました。東京都では本校以外に石神井南幼稚園、帝京大学小学校、東京都立川国際中等教育学校、東大和市立中央図書館の5校園・館だけが受賞した輝かしい賞です。47都道府県から、学校・園が171、図書館43、団体（個人）48、計262団体（個人）の表彰が行われました。この表彰は、4月23日「子ども読書の日」を記念し、国民の間に広く子どもの読書活動について、関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的に毎年、「子供の読書活動推進フォーラム」の際に行われます。王子桜中学校は、学校経営の柱にメディアセンター（学校図書館）の利活用を位置付け、全校で「ビブリオバトル」「小学生への読み聞かせ」等を実践し、子どもが積極的に読書活動に取り組める工夫をするとともに、読書好きな子どもの育成にも力をいれてまいりました。さらに、生徒がお薦め本のPOPを作成し、児童や地域に紹介するなど中学生ならではの活動にも取り組んできました。学校、スクールコーディネーター、元スクールコーディネーター、学校図書館指導員、地域が連携した「小中連携図書館フェスティバル」も開催し、子どもの読書活動を支援する連携も行われています。学校図書館の様々な利活用を開校以来継続的に推進し、学校の取組が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動となっていることが高く評価され、文部科学大臣表彰という名誉ある賞に輝きました。これも、生徒・

教職員の意欲的な取組はもちろんのこと、スクールコーディネーターの皆様を始め、ボランティアスタッフの皆さま、学校図書館指導員の方々の長年に渡る魅力ある図書館づくりにご尽力いただいた賜物であります。この名誉ある賞をいただいたことを機に、さらに子どもの読書活動の推進に努めてまいります。



### 《離任式を行いました》

4月25日（金）6校時に離任式を行いました。昨年度、本校を離任された校長先生や先生方大変お忙しい中お越しいただき、生徒のみなさんや教職員に心温まる暖かい言葉がけをしていただきました。そして、代表生徒から離任式された皆さまに、感謝を伝える言葉と花束が贈られました。ひと月ぶりにお会いできた喜びとお別れの悲しみ、これからもお元気で活躍してください、という色んな思いが込められた生徒のみなさんの感動的な言葉に涙があふれました。

離任された皆さま、どうかいつまでもお元気で活躍くださいますことを心よりお祈り申し上げます。本日はご多用の中ありがとうございました。



## 浮世絵に見る飛鳥山



江戸時代の飛鳥山



明治時代の飛鳥山

提供 飛鳥山博物館

上の絵は、「古今東京名所 飛鳥山公園地王子製紙会社」です。三代歌川広重により明治 16(1883)年に制作されたものです。三代歌川広重は、幕末に活躍した絵師・歌川広重の門下です。

この作品は、江戸時代の様子を描いたものと明治時代の様子を描いたものとで対になっています。**どちらも同じ場所です。**上の絵は、江戸時代の人々が飛鳥山の崖上から「かわらけ投げ」を楽しむ様子が描かれています。かわらけ投げは、厄よけなどの願いを掛けて、素焼きや日干しの土器の酒杯や皿を高い場所から投げる遊びです。高台にある花見の名所などでよく行われていました。

一方、二番目の絵は、明治となり洋装の紳士やコウモリ傘をさす男性が崖下の煉瓦の工場を眺め見る情景が描かれています。文明開化の時代には、花見と共に煙突から煙を吐き出す煉瓦の工場が新名所になっていたのです。

この工場こそが、明治時代の実業家である渋沢栄一の呼びかけで、明治 8(1875)年に日本初の製紙工場として操業を開始した「抄紙会社」(後の王子製紙)です。工場は、三棟の総煉瓦造りの建築物でした。当時の東京には、本格的な西洋建築はまだほとんどなかったので、西洋風の工場と煙突からのぼる煙は、まさに文明開化の象徴として人々の目に映ったことでしょう。

明治 16(1883)年には、飛鳥山の崖下に上野～熊谷間を走る鉄道が開通しました。現在、飛鳥山の崖際から東側(低地側)を臨むと、明治時代の人々が眺めた煉瓦の工場に代わって、JR京浜東北線・高崎線・新幹線の高架とタワーマンションのある景色が広がっています。



現在の飛鳥山からの眺望

### 【王子は日本のリッチモンド】

明治時代に日本にやってきたイギリス人たちの間で、王子はイギリスのリッチモンドだという評判が立っていたそうです。リッチモンドとは、イギリス、ロンドンの南西に位置する行楽地で、英国の王立植物園があり、テムズ川も近くを流れる風光明媚な地域です。

王子には、飛鳥山があり江戸時代からの桜の名所でした。また、周囲は音無川(石神井川)が流れる自然と水に恵まれた地域で、王子権現もあり、行楽地として親しまれてきました。明治当初の外国人は乗馬を楽しみながら、都心から王子までやってきたのです。

### 【桜の名所から大工業地へ】

王子は、幕末から明治にかけての時期に大きく変化しました。

そのきっかけとなったのは、明治6(1873)年、千川上水のきれいな水と石神井川の流れを利用して洋紙を製造する「抄紙会社」(現・王子製紙)の設立です。この「抄紙会社」を設立したのが、2024 年新紙幣 1 万円札肖像に選ばれた渋沢栄一翁です。

渋沢栄一といえば、第一国立銀行(現・みずほ銀行)、人造肥料(現・日産化学)、日本煉瓦、東洋製鉄(現・日本製鉄)、東京瓦斯(現・東京ガス)、東京海上火災保険(現・東京海上日動)、帝国ホテル、東京証券取引所、清水建設、秩父セメント、麒麟ビール、東洋紡績など約 500 社もの企業の設立に関わった、「日本資本主義の父」と呼ばれた偉大な人物です。

この「抄紙会社」の跡地である王子駅前サンスクエア付近に「洋紙発祥の地」の石碑が建っているのは皆さんもご存じだと思います。渋沢栄一がここに製紙工場をつくったことにより、紙幣等をつくる大蔵省印刷局もできました。また、当時はパルプを製造する工程で、硫酸が必要でした。その硫酸も、渋沢栄一が関係した関東酸曹(現・日産化学)が製造していました。さらに王子製紙など製紙業界では、紙すきの際に乾かすのに、フェルト(動物の毛を圧縮してシート状にした繊維品)を使用することからフェルト工場(現・日本フェルト)も創業しました。このように、王子の町は渋沢栄一が創業した抄紙会社を拠点とする紙の一大コンビナートが形成されていたのです。そう言えば王子地区にも紙を使用する、東京書籍・リーブルテック・図書印刷がありますね。また飛鳥山には「紙の博物館」もあって、この土地の歴史を物語っています。

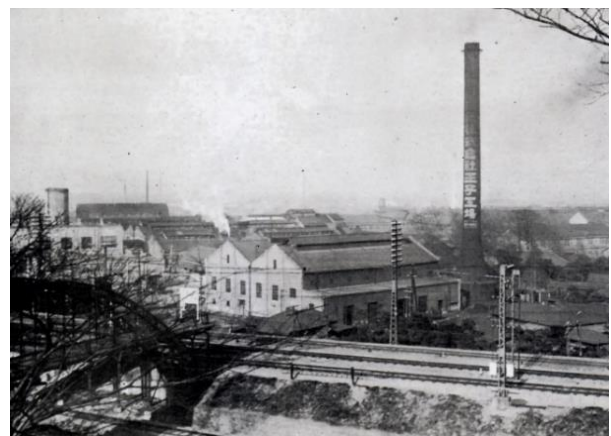
### 【飛鳥山には渋沢栄一の邸宅】

現在、飛鳥山の渋沢史料館・青淵文庫・晩香廬がある場所一帯には明治 22 年に渋沢栄一の広大な邸宅(別邸)が建てられました。第一国立銀行と東京証券取引所のある日本橋兜町には洋館の本邸を建てています。どうして飛鳥山に邸宅(別邸)を建てたのでしょうか。日本橋兜町も飛鳥山も自分の事業に関係のある場所を選んで住んだことは間違いありません。加えて、渋沢栄一は今の埼玉県深谷市の出身です。飛鳥山は日本橋兜町から深谷への道すがらに当たる位置なのです。日本鉄道(現・高崎線)王子駅が開業すると王子から深谷までは直結となりました。故郷の深谷には日本煉瓦を創業し、ここのレンガは東北線で運ばれ、東京駅や旧法務省、王子では旧大蔵省醸造試験所第一工場に使われました。

晩年にいたるまで、渋沢栄一は王子駅から汽車に乗り込み、故郷である深谷との往復をしていました。王子は渋沢栄一にとって東京のなかでも故郷に通ずる心安らぐ場所だったのでしょう。



王子駅前サンスクエア付近の「洋紙発祥の地」石碑



王子製紙 (写真提供区立中央図書館)